

スポーツで友好深める

瀋陽派遣 6 中学生が市長に抱負



秋元市長（右から4人目）と、瀋陽を訪れる中学生ら

札幌市の国際親善コミュニケーションスポーツ姉妹都市交流事業で、11月3日から中国・瀋陽市を訪れる札幌市の中学生の卓球選手団が30日、市役所を訪れ、秋元克広市長に抱負を語った。

同事業は、札幌市が1985年から毎年実施。瀋陽市など海外の姉妹・友好都市に中学生を派遣し、スポーツで交流を深めている。選手団は国田広也さん（北野台中）、川瀬仁志さ

ん（上野幌中）、中山佳耶さん（あいの里東中）、伊

藤佑希子さん（札幌大谷中）、北川加純さん（手稲中）、門脇理那さん（柏丘中）の6人。川瀬さんは「卓球を通じて友好を深めたい。札幌の代表として自信を持って行動してきます」と話し、秋元市長は「近い国の若い人たちと交流し、視野を広げてほしい」と激励した。

札幌フロンティアアイライオンズクラブのメンバーも同席し、松井高志会長が選手団にユニホームを贈った。選手団は7日まで滞在し、現地の中学生と練習や試合を行う。

（相川康暁）